

第2回 市民ワークショップ

「鬼無里の公共施設の課題と、その解決方法を考える。」 をテーマにグループ討議を行いました

平成30年12月15日(土) 鬼無里活性化センターで第2回「地区の公共施設について考える」市民ワークショップを開催しました。

まず、施設の老朽化や人口減少、少子高齢化などの現状と課題についてのおさらいをしました。続いて、信州大学工学部佐倉研究室の学生の皆さんからの、前回意見の振り返りや新しい視点の提案を参考に、地区内の公共施設の課題を中心に各グループで活発な討議が行われました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



グループ討議の様子 熱心に話し合っていました



公共施設の状況 (おさらい)

- 施設の老朽化／築30年以上が44%(公共施設白書)
- 人口減少／H12年(387,911人)をピークに減少
H52年には30万2千人に！(約22%減)
- 少子高齢化／生産年齢人口(支える世代)の減少
高齢化に伴う社会保障費の増加

公共施設マネジメントが必要

いつやるの？

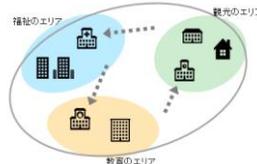
今でしょ
公共施設のかしこい見直し方
とは？



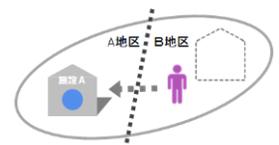
複合化・集約化すると、いろいろなメリットが...

- 「人が集まることによる活性化」「移動時間短縮」
- 「多世代交流」「人員配置の効率化」
- 「共用部分の削減(エントランス、廊下、トイレ)」などなど

エリアで分ける



地区の外に目を向ける



将来まで残す施設のコストは、将来の市民が負担します。
→将来まで残していく施設はどれですか？

◇ワークショップの結果、鬼無里地区の公共施設に対するご意見・ご質問などありましたら、遠慮なくお聞かせください。



長野市ホームページ
(市民ワークショップのページ)

<https://www.city.nagano.nagano.jp/site/koukyou-ws/>

【お問い合わせ先】

公共施設マネジメント推進課

電話:224-7592

鬼無里支所

電話:256-2211



各グループから発表された主な意見をご紹介します

【Aグループ】世代をこえた人の集まる拠点づくり

- ◇若者コミュニティセンター；病院や支所等の帰りに立ち寄り、多世代の人々と雑談ができたが、今はその交流を持ちにくい。直して使いたい。お茶っこの機会を増やしたい
- ◇教職員住宅；空き家は増える一方、移住者向けに使いたい など

【Bグループ】自然の中での暮らしを未来へ残しよりよくしていくためには？

- ◇「鬼無里を知ってほしい」；野沢菜採り体験・星空鑑賞会・雪遊びなど。ふるさと資料館の充実
- ◇農業の活性化；地区内外に関わらず農業をしやすい環境を整備し農業人口増加（直売所改善）
- ◇“場”の必要性；シニアに優しい暮らしやすい地域が他の世代にも魅力的に など

【Cグループ】高齢者が安心して長く住み続ける鬼無里

- ◇高齢者が住みやすい場所；冬季限定の高齢者共同住宅として、市営（教員）住宅を活用
- ◇若者が住みやすい場所；若者が働ける職場、低価格な土地を強みに民間の老人福祉施設を誘致
- ◇機能の集約；「支所」「学校」「旅の駅」周辺に機能を集約させ、地域の中心に など

【Dグループ】集約するなら足の確保を

- ◇鬼無里学；地域の人々が先生になり、鬼無里の郷土・産業等を伝える。受講者はバスを利用する
- ◇地域通貨；地域内でボランティアするともらえ、送迎や買物等のサービスと交換できる
- ◇市バス等の再検討；週に1日でも夜の便を設定し、その日に会議等を行うようにする

【Eグループ】鬼無里の魅力をどうPRするか —そのための公共施設の在り方—

- ◇公営住宅；移住希望者のための「おためし」の住宅として使えないか？
- ◇鬼無里；子どもと地域の人たちが交流する場所。子どもが地域をPRすることはできないか？
- ◇ふるさと体験館 蕎麦工房など；名前がややこしい（問題点） など

【Fグループ】鬼無里の暮らし（食・農・自然・人）をお手軽に！

- ◇いきなり移住はムリ STEP1 体験プログラム（田植え・森あそび・雪 じわじわはめていく；かき道場） → STEP2 交留（ゆっくりする場所）※あえて「流」ではない「留める」という意味 → STEP3 まずは一晚（お酒・宿泊） → STEP4 また来る（寄りどころ） → STEP5 住む！！（住宅・短期/長期）
- ◇旧中学校；外から来る人の拠点（シェアオフィス、中心地に近い、地元の人も行きやすい）
- ◇市営（教員）住宅；体験ハウス（体験プログラムと食農セット）、入居条件の見直し など

参加者アンケートから

- ◆積極的な意見が出されていて、次回具体的に進めていければ話し合った意味があると思う
- ◆鬼無里の人は本当に困っていることがあるのか？
- ◆地域の理想像など聞いて面白かったが、公共施設をどうするかという具体面への踏み込みが足りなかった気がする
- ◆3回のワークショップでは物足りない、時間を2時間にとらわれず検討したい
- ◆それぞれのグループが違う視点で討議していたと感じた などなど・・・

アドバイザーの佐倉弘祐先生（信州大学工学部助教）のコメントを紹介します

- ・高齢者が楽しむ様子が他地区に伝わることで、結果的に移住につながっていく。
- ・定年者を迎え入れる場所にするという意見が出ていたが、鬼無里の在り方として考えられるのではないかな。
- ・F班のようにフェイズ*ごとに考えるのはとても良い。 ※段階・局面など
- ・どういう人たちやどのエリアを対象に検討するか、意見が出たので、両方が重なる部分を考えることで全体像が見えてくると思う。

1月26日（土）は最終回！鬼無里の公共施設の将来像を考えます！